

オオハシシギ *Limnodromus scolopaceus* (Say)

【選定理由】

シベリアで繁殖するが、主な越冬地はアメリカ大陸である。国内の生息数はかなり少ないが、以前の愛知県は国内でも本種の飛来数の多い県であった。調査が始まった 1970 年代からほぼ毎年のように 1~数羽の飛来が確認されており、当時の県内では越冬種でもあった。近年は越冬期の記録がほぼなくなっており、本種が安定して越冬できる環境が、県内から消失しているといえる。

【形態】

全長は 24~30cm、翼開長は 46~52cm。夏羽は、顔から頸および下面が赤褐色で暗褐色の斑があり、腹から下尾筒にかけては横斑状で、頭中央と上面は暗褐色。冬羽は、頭部から頸および胸にかけては灰褐色で、上面は濃灰褐色、腹から下尾筒にかけては白色で暗褐色の横斑がある。幼羽は冬羽に似るが、背と肩羽の羽縁は赤褐色で、全体に褐色味が強い。嘴は太くて長く、脚は黄緑色。飛行時、下背から尾にかけては白く見え、翼後縁に細い白線がでる。



愛知県西尾市, 2016 年 4 月 17 日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

伊勢・三河湾沿岸や木曾川下流部の干拓地にある水の入った水田や水路、および沿岸部の埋立地にある水溜りなどに飛来する。

【国内の分布】

数少ない旅鳥または冬鳥として本州、九州などに飛来する。

【世界の分布】

北東シベリア、アラスカ西海岸で繁殖し、アメリカ西海岸、メキシコ西海岸などで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

春秋の渡りの季節に河口の干潟、干拓地の水田や水路、埋立地の水溜りなどに飛来する。越冬期は水の入った水田や水路など、主に淡水の湿地を好んで生息する。県内には、秋は 8 月下旬頃から飛来し、春は 4~5 月に飛去する。餌は主に巻貝や水棲昆虫などの小動物であるが、植物の種子なども食べるらしい。

【現在の生息状況／減少の要因】

以前は毎年のように県内で越冬期に確認されており、1990 年代半ばから 2010 年頃までは生息数に増加傾向もみられたが、その後再び減少して越冬も希になっている。近年の主な飛来地は愛西市周辺、庄内川河口、矢作川河口周辺および旧一色町周辺、汐川干潟周辺などであるが、現在は飛来がなくなっている場所も少なくない。減少の要因は、沿岸部の水田が転作により乾燥化したことと、県内全ての埋立地から湿地の環境が消失したことなどがあげられる。

【保全上の留意点】

愛知県では、干拓地や埋立地の遊休部分に、淡水や汽水の湿地環境を復元する努力が必要である。また、過去にシギ・チドリ類が多く生息していた地域では、水田の一部を借り受けて休耕田にするとか、水田の一部の転作作物を麦・大豆でなく飼料米などにすることで、毎年水田の環境が継続されるようにすることも必要である。また、水田の一部を冬期湛水することで、水棲生物や土壌生物の生息環境を保全し、水田の生態系を維持することも大切である。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.128. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)